

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (十)

天つ風 雲の通ひ路 吹きとぢよ 乙女の姿 しばしとどめむ

僧正遍昭

〈歌意〉
「空を吹く風よ、雲の中を通過して天に帰る道を吹いてさ
えぎつておくれ。天女の姿をもうしばらくここに留めてお
きたいものだ。」この歌は『古今集』(八七二番) に出てい
ます。

(僧正遍昭)

弘仁七(八一六)年、寛平二
(八九〇)年、七五歳。俗名は良
岑宗貞。

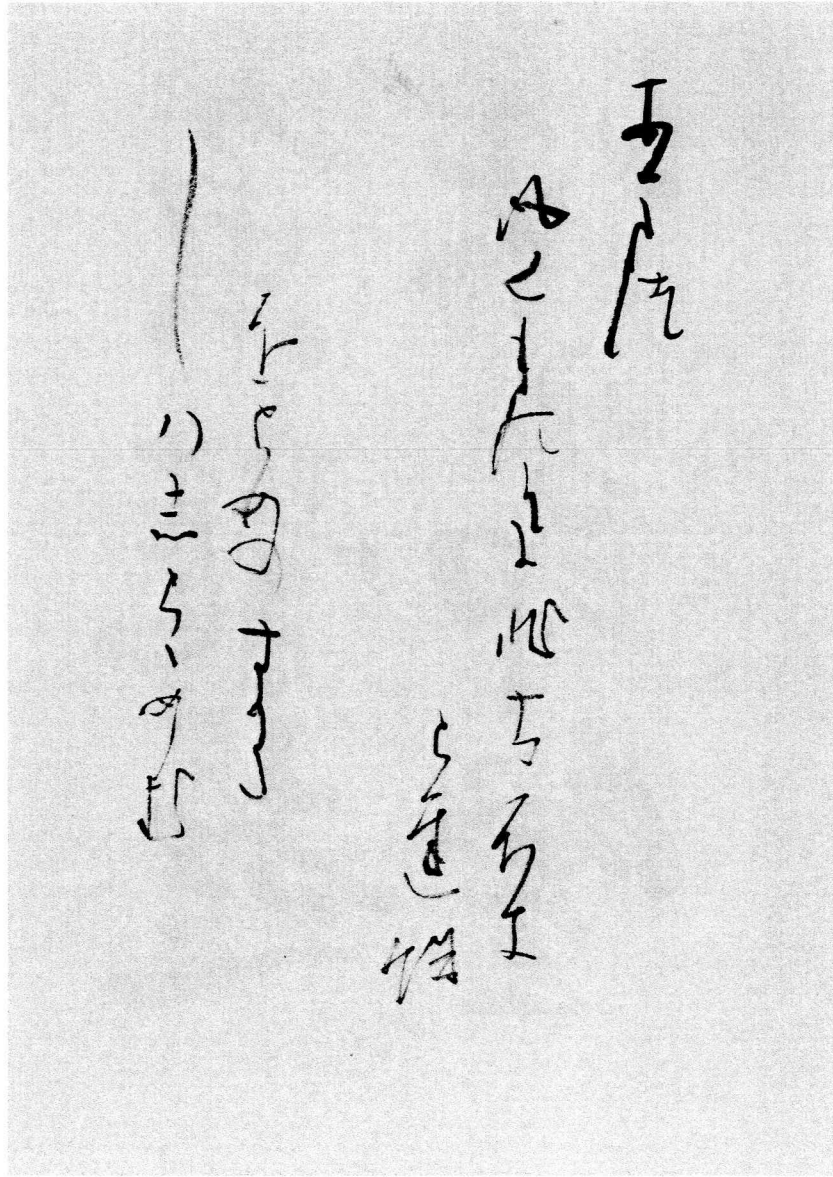
〈字母〉

あ万徒

風くも能可よ非ち不支

と遅餘

を と め の す 可 多
し 八 志 と ち め む



中村素堂先生の書 大島香菊様提供

この歌は上の句と下の句に分けて左右2集団構成で書かれています。
(中村青藍)